

棚田発！日本のこころのプロジェクト

代表者 請川雄哉（農学部応用生物科学2年）

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、小豆島中山地区の棚田景観、棚田米の素晴らしさを、より多くの香川大学生、県民にアピールすることを目的としています。小豆島中山地区の棚田は、全国棚田百選に選ばれており耕作以外でも文化的景観として注目されています。しかし近年、耕作者の高齢化により放棄地が増加しているため景観の保全が大きな課題となっています。SUIJIや昨年度の活動の中で、中山の人と関わり「私達にも協力できることはないだろうか」と考えこのプロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトは、自ら棚田での稲作に携わり、その経験や小豆島の良さを様々な人に伝えることで小豆島、中山地区の地域振興を目指しています。

2. 実施期間（実施日）

平成27年4月22日 から 平成28年3月31日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

本プロジェクトは、昨年度の活動を基に継続、発展させたものです。昨年度の活動としては、田植えや稲刈りを中心とした耕作活動に加え、水路掃除や歌舞伎、虫送りなどの小豆島中山地区の事業にも参加しました。また、農学部で行った収穫祭において、棚田で収穫したお米を使ったおにぎり配布、餅つきなどを行いました。配布の際には、訪れていただいた方へのアンケート活動を行い、その結果をまとめて課題点などを見つけ、今年度の活動につなげるようにしました。

今年度の活動は昨年度に比べ、実際に小豆島の棚田地区に行く機会が増えたことが大きな違いです。昨年度行った耕作活動や、地区の事業（歌舞伎、虫送りなど）に加え、棚田関係者や自治会員に棚田の会事業についての報告活動を行いました。その際は、昨年度同様に行った収穫祭で得られた結果を報告しました。配布活動の内容なども伝えられたのですが、小豆島や中山地区に関するアンケート結果を報告したことが一番良かったと感じています。今後どんなことをしていくかについても話し合うことが出来ました。ここで、夢プロジェクト申請の際に提示した今年度の事業計画と実際に行った活動について照らし合わせて報告させていただきます。提示した主な事業計画は

- ・手伝わさせていただく棚田で米、もち米の栽培と中山地区の棚田維持について学ぶ。
- ・棚田オーナー制度へのボランティアと地域に伝わる伝統文化の活動に参加する。
- ・収穫祭で棚田米の販売や小豆島以外の人々への認識調査を行い知名度向上を目指す。
- ・昨年度の収穫祭で行ったアンケート結果を元にし、小豆島以外に住む香川県民の小豆島、棚田に対する関心を深める。
- ・もち米を使った新食品開発を行う。

の5つの内容でしたが、上の2つの「棚田維持について学ぶ」こと、「伝統文化に参加する」ことは昨年度に増して十分に達成できたと感じています。この2つは中山地区と私たちの活動に関するものであり、上記の通り交流会なども積極的に行ったため、より濃い内容になったと感じています。

次の2つの収穫祭に関する事で、アンケートと成果報告を行ったことにより、認識調査と知名度向上はできたと感じました。しかし、収穫祭に訪れていただいた方々の中から「私達も棚田活動に参加したい」、「虫送りなどの伝統事業の開催日を教えてほしい」という声もいただいたため、より幅広い広報活動の必要性を感じました。

新商品開発について、今年度は昨年度よりも小豆島に訪れた回数が増えたため、渡航費が多くかかってしまい、十分な予算をあてることができなかつたため断念してしまいました。

全体的な活動における評価として、昨年度よりも地域の方と深い関わりを持って活動できたことが良かったと感じています。そのおかげもあり、交流活動や文化事業に積極的に参加することが出来ました。中山地区と私たちのつながりを深めることが出来た重要な活動年度だったと感じています。



4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクトを実施したことによる大きな影響として、学生と地域の方々間でのつながりが深くなったことが挙げられます。プロジェクトとしては、地域の方との関わりとして小豆島のお年寄りの昔からの知恵、大学の専門知識、大学の行動力と発想力を、相互に伝えあうことで持続可能な地域づくりを達成する事を目的としていました。私達は、耕作作業を行う際にほとんどの作業を一から教えてもらったのですが、棚田における耕作作業として知らなかったことが多くとても勉強になりました。

虫送りや歌舞伎などの伝統事業にも参加させていただいたのですが、その際に準備の手伝いをしたことや、中山に来られた多くの観光客の方たちと交流をしたことは中山地区の活動に柔軟性を広げることに貢献できたと感じています。

他の重要な活動としては、農学部で行った収穫祭です。今年度、私達は赤飯、おもちの配布、棚田耕作活動報告、アンケート調査を行いました。主に農学部周辺に住む、地域住民の方が多く訪れてくださったので、活動報告とアンケート調査がとても重要にな

ったと感じています。私達の活動を伝えることで中山地区の棚田について関心を持っていただくことが出来ました。また、アンケート結果には次に棚田の会で取り組んで欲しい事なども書いてくださる方がいたためとても参考になりました。

収穫祭で得たアンケート結果には、中山地区に関する意見、提案なども見られたため中山地区の方へ直接伝えに行こうと思い、交流も兼ねた活動を行いました。収穫祭で中山地区に関する知名度などについて訪ねたアンケート結果や私達の活動報告を行ったのですが、地区の方にもとても興味を持っていただきお互いに意見交換をする良い機会になったと感じています。その場では、次年度に考えている活動なども積極的に話し合うことが出来ました。

今年度の活動全体を通して感じたことは、より幅広い交流が出来たという事です。これは昨年度よりも多くの活動を行ったことによる影響だと考えています。今まで交流してきた中山地区の方とはより深いつながりになり、収穫祭に訪れていただいた方やオーナー制度で関係のあった方とも交流することが出来ました。この幅広い交流の中から得た内容は、次年度の活動を盛り上げていく上でも必要になってきます。中山地区、棚田の会共に今後につながる大きな影響を受けた活動年度でした。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

本プロジェクトが私たちに与えた影響として大きく2つ挙げられます。

まず1つ目は、地域と学生がつながることで、地域未来社会を共に考えることができたということです。学生同士だけで地域未来社会や地域活性化を考えるのは、情報が少なすぎ、考えに偏りができてしまいます。地域住民と共に話し合い、意見交換をすることで新たに見えてくるものがありました。小豆島は観光地やロケ地として、全国的にも注目されています。私たちの活動中にも観光客が訪れていました。しかし、実際には香川県内において小豆島町では4位、土庄町では2位の人口減少率が続いています。地域住民との交流を通して棚田の維持・耕作放棄地問題、人口減少、空き家問題、伝統文化の伝承などの地域課題が見えてきました。

これからの棚田・地域をどう盛り上げていくのか、現在減少している人口を食い止めるにはどうすればよいのか、若者の興味を地域に向けさせるためには何が効果的か、棚田・地域の魅力とは何なのか、そしてそれをどのように伝え、広めていくべきなのか。いま、社会が直面している問題に対して、地域住民と共に考えることが出来ました。そして棚田での稲作活動を通して、棚田米や中山地区棚田のPR活動をすることが出来ました。考える力、話し合う力、そして行動力が養われたように思います。このことは、今後の学生生活や就職活動においても役立つ力です。また、本プロジェクトに携わらなければ出会わなかった年代や農家・役場などの職種の方々と交流を持つことができ、広い視野をもつことができたと思います。

2つ目は、農作業を地元の人に教わりながら行うことで、棚田ならではの伝統ある田植えや稲刈り方法を学べたということです。機械を使わずに、手作業での田植えや稲刈りは学校で授業を受けているだけでは体験できない貴重な経験です。また、農作業を進

める上で土壌の状態や肥料について考えることもでき、授業で得た知識の理解が深まりました。

この活動は、私たちの学生生活においても大きな効果をもたらしていると思います。今後も発展させていきたいと思っています。



(田植え作業風景)



(集合写真)

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

反省点としては、農作業での活動が多く、地元の人との交流やPR活動が少なかったことです。どうしても農作業中心となりがちになってしまいますが、地元の方の声を聞きながら活動を行っていきたいと思います。地元住民との交流会では、多くの意見を聞くことができ、私たちの活動にとって大変刺激になりました。

今後は、次年度の学生を増やししながら、もっと棚田のPR活動をしていきたいと思います。今年は、瀬戸内国際芸術祭があるので、計画を練って活動を行いたいと思います。

この活動を私たちの自己満足だけで終わらせたくないと思っています。私たちの活動がどのように影響を与えられるのか、今後も考えながら活動していきたいです。

中山地区の方は「とにかく第一に中山を楽しんでほしい。そして中山地区を好きになって、その地域の良さを友達、家族、県内外または世界の人に知らせてもらいたい。」とおっしゃっていました。私たちが地域と若者や県内外、世界中との間のパイプ役となり、小豆島中山地区、棚田の発展に尽くしていきたいと思っています。

最後になりましたが、私たちの活動の指導をしていただいた小豆島役場の方々、中山地区自治会の皆さま、そして農学部田島先生、松村先生に感謝の意を申し上げます。今後どうぞよろしくお願いたします。

7. 実施メンバー

代表者 請川 雄哉 (農学部2年)

副代表 貞松 千琴 (農学部2年)

構成員	田野	雅子	(農学部2年)			
	田中	花奈	(農学部3年)			
	尾崎	佳苗	(農学部3年)	門田	舞	(農学部3年)
	黒田	りか	(農学部3年)	小阪	沙波	(農学部3年)
	杉本	美帆	(農学部3年)	寺地	真由子	(農学部3年)
	豊永	大地	(農学部3年)	橋爪	雅人	(農学部3年)
	細谷	千恵	(農学部3年)	堀	晃宏	(農学部3年)
	松岡	真希	(農学部3年)	松本	唯	(農学部3年)
	真鍋	芹菜	(農学部3年)	吉岡	杏奈	(農学部3年)
	坂田	健太郎	(農学部2年)	江口	祐基	(農学部2年)
	花崎	友彦	(農学部2年)	松村	大地	(農学部2年)
	吉田	光寿	(農学部2年)			